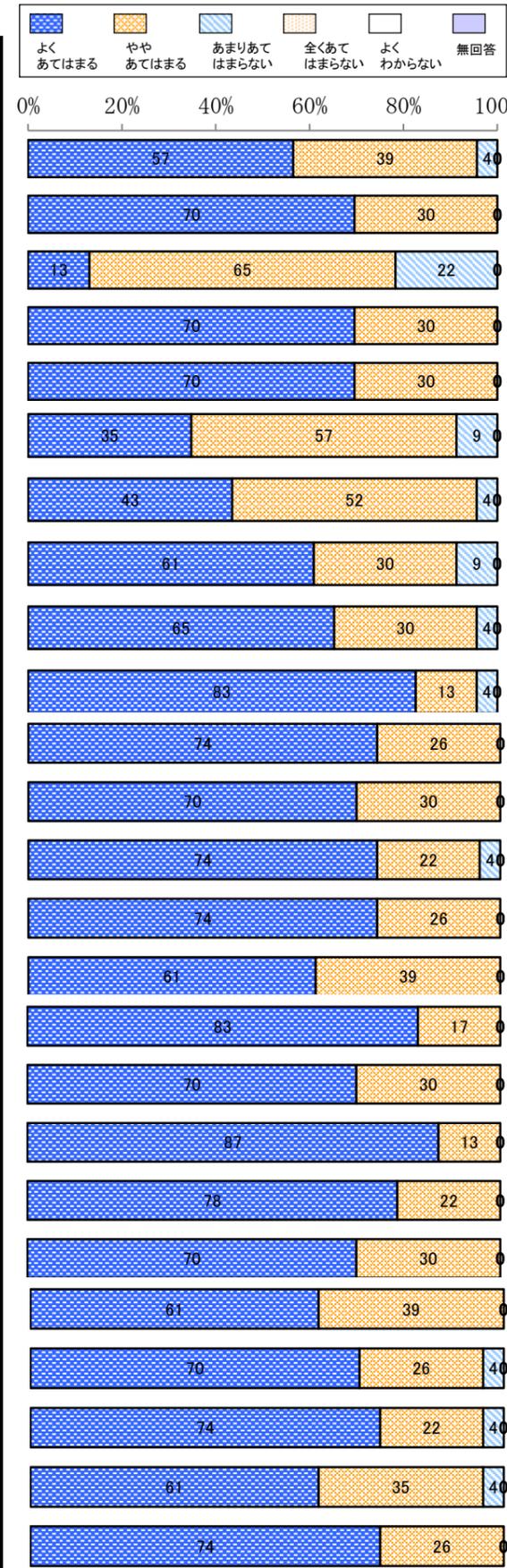


令和6年度 『学校評価アンケートの結果』 と 『自己評価』

アンケートの結果			上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員						
			A	B	C	D	よく分らない	無答	
学校全体の様子	1	教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。	50	31	10	2	8	0
	2	児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	72	21	3	2	1	0
	3	基本的な生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的な生活習慣がしっかりしている。	55	34	8	2	1	0
	4	児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	43	36	15	3	3	0
	5	健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	69	23	5	2	1	0
学力向上の取組	6	分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	55	34	7	2	2	0
	7	個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	60	30	6	2	1	0
	8	学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	61	20	13	4	1	0
	9	情報教育	タブレットPCなど、ICT機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	78	17	3	2	1	0
	10	学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	64	23	8	2	3	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	自他を大切に、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	75	20	4	1	0	0
	12	道徳教育	生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性をはぐくむ教育を行っている。	44	37	11	3	5	0
	13	教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	48	27	11	7	6	0
	14	人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。	79	15	4	1	1	0
	15	自治的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自治的に活動できるように工夫しながら指導している。	60	29	8	1	2	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	56	24	8	1	10	0
	17	相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧に受け止め、適切な対応をしている。	59	29	5	2	4	0
	18	学校への参加	学校公開週間や土曜授業日、学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	55	24	11	6	4	0
	19	地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	46	29	14	8	3	0
	20	意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	55	28	9	2	7	0
各学校の特色ある教育	21	生活指導重点項目	あいさつ運動やあいさつキャンペーンを通して、あいさつを意識させ、できるようにしている。	56	30	9	2	3	0
	22	研究の推進	生活科・総合的な学習の時間の授業研究を通して、自ら課題を見つけ、見通しをもって活動できる児童の育成に努めている。	47	32	13	4	4	0
	23	体力向上の取り組み	体育の授業や休み時間、運動会等の行事を通して、児童の体力向上に努めている。	63	21	13	2	3	0
	24	異学年交流	各行事や教科の学習等で、異学年交流の充実に努め、思いやりの心の育成に向けて取り組んでいる。	59	29	6	3	3	0
	25	豊かな心	体験的な活動や読書、道徳科・特別活動等を通して豊かな心を育成している。	52	31	10	2	5	0

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）

児童への学校教育目標に対する理解を深めるため、学校行事等の教育活動を活用して、方針や取組を紹介する必要がある。

昨年度から児童の肯定的意見は高まった反面、保護者のC・Dの割合が増えた。対応に苦慮する案件の増加が原因と考えられる。

価値観の多様化により、髪型や服装、持ち物など生活習慣について、教職員の指導の困難さが生じている。

児童・保護者ともにC・Dの割合が他の項目よりも多い。個に応じた丁寧な指導を教職員は一層進めていく必要がある。

児童・保護者ともに9割が肯定的に評価している。防災教育の一層の充実を進めていくとともに、積極的に発信していく。

児童の肯定的割合は昨年度より増加している一方で、教職員の自己評価は低下している。一層の教材研究を組織的に進めていく。

児童の肯定的割合が9割ある一方、保護者の満足度は低い。教職員の評価も下がっており、指導の困難さを感じている。

家庭学習に対して改善の余地があることが分かる。児童が意欲的に取り組み、学習習慣の定着を図る工夫を組織的に進めていく。

児童の肯定的割合は昨年度より増加している。一方、教職員の割合は低下しており、ICTを活用した指導に困難さを感じている。

児童のCの割合は昨年度より増えており、苦手な児童の意欲を引き出す指導法の改善に取り組む必要がある。

児童の肯定的割合が9割を超える一方、保護者の1割がEと回答しており、学校の人権に対する取組を一層発信する必要がある。

保護者の1割がEと回答していることから、学校の道徳授業に関する取組を地区公開講座等を通して積極的に発信していく。

児童保護者ともにC～Eの割合が高いことから、学校の取組や実践を学校だより等を活用して積極的に発信していく必要がある。

学校行事に関しては、児童保護者ともに9割以上の肯定的意見を得ていることから、改善を図りつつ一層の充実に努める。

児童保護者ともに肯定的意見が9割近くを占める。今後も児童が創意工夫することができる活動を工夫して指導していく。

学校の様子をHP等で発信した効果がある一方、デジタル化に伴い、保護者のC・Dの割合が増加した。発信方法を見直していく。

児童の9割近くが肯定的割合であるのに対し保護者に割合が低いので、より丁寧に迅速な保護者対応を進めていくようにする。

保護者の9割が肯定的割合であるのに対し、児童の2割近くがC・Dを選んでいることから、参観者を増やす取組を一層進めていく。

児童のC・D、保護者のEの割合が高いことから、学校と地域の連携については積極的に情報を発信していくようにする。

保護者のC～Eの割合が高いことを受け、教育活動のねらいとその成果について丁寧な説明と情報発信をするよう改善する。

あいさつに関して児童保護者ともに肯定的割合が8割を超えている。今後も意識を高める指導を重ねていく。

研究の内容の変更に伴い、児童のC～E、保護者のEの割合が高い。学習への保護者の参画を呼びかけ理解を深めていく。

保護者のCの割合が昨年度より上がったのは、運動会の午前実施の影響と思われる。体力向上の取組を見直し実践していく。

新しい項目。児童保護者ともに9割近くが肯定的割合となっている。次年度に向けて改善を図り、思いやりの心を育てていく。

児童保護者ともに8割が肯定的割合だが、C以下の割合も増えている。教育活動のねらいと成果を保護者に発信していく。

